

## 相模原市で発見されたヤマコウモリのねぐらについて

青木 雄司

Yuji Aoki: Notes on a colony of Japanese large noctule *Nyctalus aviator* found in Sagamihara City

### はじめに

ヤマコウモリ (*Nyctalus aviator*) はヒナコウモリ科に分類され、翼を広げると40cmほどにもなる大型の食虫性コウモリである。この種のだす超音波は20kHz前後で、人間の可聴域の声も出すと言われている (前田, 1995)。

ねぐらとする樹洞のある大木の減少によって、ヤマコウモリをはじめとする樹洞性コウモリの個体数の減少も指摘されている (前田, 1996)。また、ヤマコウモリは環境省のレッドデータブックでは絶滅の危険が増大しているとされる絶滅危惧種Ⅱ種に指定されている。神奈川県内でも記録は数例にとどまり、現存のねぐらも見つかっていなかった (中村, 1995)。今回、著者はヤマコウモリのねぐらを相模原市上溝で発見したので報告する。

なお、コウモリの発する超音波はUltra Sound Advice社製バットディテクターMINI-3、ねぐらのあるケヤキの樹高はK式測高器、ねぐらに使われている樹洞の高さは検測桿を用いて調べた。

### ヤマコウモリのねぐらと判断した根拠

ねぐらの中から標本を採集していないが、以下の3点からヤマコウモリのねぐらと判断した。

1. ねぐら下でヤマコウモリの死体を拾得した。
2. ねぐらから飛び出す大型のコウモリを確認した。
3. 可聴域の声と、20kHz前後の超音波を確認した。

### ねぐらについて

ねぐらが発見されたのは、相模原市上溝、佐藤行雄氏宅の敷地内にあるケヤキの大木で、樹高32.2m、胸高幹周6.59mであった (図1, 図2)。

2001年10月29日に調査したところ、明るい内の16:20から16:55にかけて最低35頭の子ヤマコウモリが2カ所の樹洞から飛び出すのを確認した (当日、横浜の日の入り時刻は16:50)。その際にホオジロの地鳴きを激しくしたようなチッチッという可聴域の声と

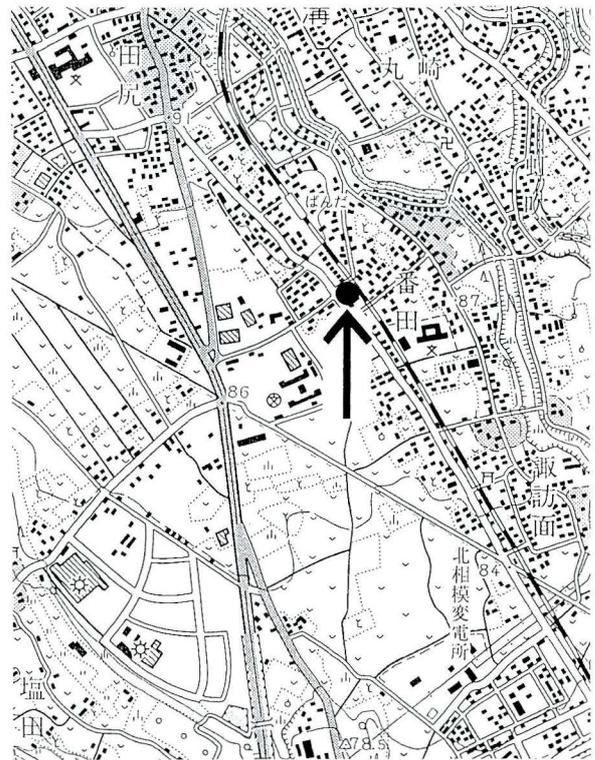


図1. ねぐらが発見された場所。国土地理院1:50000地形図「上野原」より作成。

20kHz前後の超音波を確認した。飛び出した2カ所の樹洞は、樹洞下部の高さ13.5m、入口(縦)40cm×(横)10cmと(図3)、樹洞下部の高さ17.7m、入口(縦)80cm×(横)5cmであった(図4)。これらの樹洞の入口の値は目測によるものである。

### ねぐら下で拾得した死体について

2001年5月1日、県道上にて著者がヤマコウモリの死体を拾得した(図5)。死体は損傷が激しく、頭骨などに骨折が見られた。そのため、計測可能部位は前腕長(62.5mm)のみであった。現在、この標本は相模原市立博物館に収蔵されている。



図2. ねぐらのあるケヤキ (右側).



図3. ヤマコウモリの出てくる樹洞1.



図4. ヤマコウモリの出てくる樹洞2.

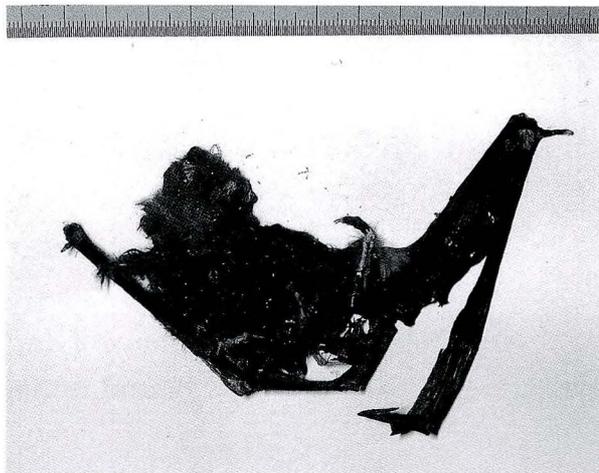


図5. 拾得したヤマコウモリ.

### 謝 辞

ケヤキの所有者であり,貴重なデータの発表について許可をいただいた佐藤行雄氏,ヤマコウモリの同定をしていただいた箱根町立森のふれあい館の石原龍雄氏,助言をいただいた(株)自然教育研究センターの白石浩隆氏,ケヤキの計測をしていただいた神奈川県自然環境保全センターの齋藤央嗣氏に厚くお礼を申し上げます。

### 引用文献

- 中村一恵, 1995. 哺乳類, 神奈川県レッドデータ生物調査団編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書, pp. 157-170. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 神奈川県
- 前田喜四雄監, 1995. コウモリウォッチングガイド, 15 pp. ナチュラリスト・クラブ, 東京
- 前田喜四雄, 1996. 樹洞性コウモリ. 日高敏隆監, 日本動物大百科第1巻, pp. 48-49. 平凡社, 東京.

(神奈川県立宮ヶ瀬ビジターセンター)